

指定管理業務評価シート

評価視点	評価項目	事業区分	評価指標	数値目標	指定管理者評価				図書館協議会評価	
					事業計画の概要	事業実績	実績値	評価	評価内容	評価
運営全般事項	人員配置	指定	職員配置が適切であるか。また、業務が円滑に遂行されているか。		全館合計16名体制とし、業務を円滑に遂行する。	それぞれの館において、急な用事や病気で人員が不足した場合は、速やかに他の職員を配置し、業務を滞ることなく円滑に遂行することができた。		A	評価基準Bの範囲である	B
	人材育成	指定	職員への教育・研修を実施し、職員の能力向上に努めているか。		より一層の職員研修に努め職員の資質向上を図る。	各職員が、自発的に様々な研修会に参加し、更なる資質向上に努めた。		B	妥当である	B
			・職員研修会開催回数	12回/年		・職員研修会開催回数	9回/年			
			・苦情・ご意見件数	10件/年		・苦情1件／ご意見10件	11件/年			
	組織の管理体制の確立	指定	現場スタッフと管理間の意志疎通や情報共有がとられているか。また、工夫がされているか。		職員間の直接の対話を増やすと共に、各館へ回覧・配布を行い、情報の共有を図る。	郵送やメール等で送られてきた情報を適宜回覧すると共に、毎月行っている各図書館責任者による施設連絡会や、事業団ミーティング等で話し合われた内容等についても、全職員に情報共有を図った。		A	妥当である	A
	ボランティアの育成	指定	ボランティアの育成が図られているか。		ボランティアの裾野を広げるための施策を行う。	定期的に会合やおはなし会を開くなど、ボランティアの技術向上に努めた。		B	妥当である	B
	広報・PR	指定	広報・PRをどれだけ行い、効果がどれだけあったか。		新聞等でのイベント報道に加え新着図書案内、図書館コラムの連載を継続する。また、ホームページの充実を図り多面的な発信に努める。	事業ごとに各新聞社等への周知や取材依頼の送付、SNSやホームページへの情報掲載。利用者に好評を得ている月2回の地元新聞掲載のコラム等、幅広い情報発信を行った。		B	妥当である	B
			・広報大館への掲載回数	12回/年		・広報大館への掲載回数	12回/年			
			・広報紙の発行回数	36回/年		・広報紙の発行回数	36回/年			
	施設設備の維持管理	指定	施設維持管理が良好に行われているか。また、清掃が行き届いているか。		点検や巡回の励行はもとより、担当部課との情報共有に努め、施設設備の長寿化及び更新等に関する交渉を継続する。	職員による日常的な巡回を行い、不良箇所等を発見した時は速やかに修繕等の対応を行い、大規模な修繕や改修等が必要な案件については、市所管課に報告・相談を行い、利用しやすい快適な施設を維持するよう努めた。		B	妥当である	B
	危機管理体制の確立	指定	危機管理に関する対応方法が職員に周知されていて、緊急時の連絡体系が整っているか。		緊急時の対応や消防設備について理解し、設備の管理を行う。	各自、緊急時に利用者の安全確保を第一に考え、迅速で確実な行動ができるよう、職員の意識共有を図った。		B	妥当である	B
	経費の適正な執行	指定	経費の効果的、効率的な執行がなされ、その目標が達成されているか。		利用者サービス等に影響が出ない様、効率的な経費節減に努める。	燃料費は高騰の影響により増加となったものの、それ以外の経費については、職員全員で省エネに努めたことにより、前年度より経費節減を図ることができた。今後も、継続して経費節減に努めていく。		B	妥当である	B
			対直営時	・人件費外の経費削減率	－ %以上	・人件費外の経費削減率(対R5)	△0.01%			
				・消費電力削減率	－ %以上	・消費電力削減率(対R5)	△0.06%			
				・水道量削減率	－ %以上	・水道量削減率(対R5)	△0.09%			
				・燃料削減率	－ %以上	・燃料削減率(対R5)	0.35%			
	館長のリーダーシップ	指定	館長がリーダーシップを発揮して運営を行なっているか。		職員間の相互理解を深め、信頼関係の構築に取り組む。	各職員との対話や全体ミーティング等で意思疎通を図った他、今まで培ってきた経験と実績により新たな事業を開催する等、リーダーシップを発揮して健全で円滑な運営を行った。		A	妥当である	A

市の総合評価

所管課コメント	判定	職員の資質向上やボランティアの技術向上などに努めているほか、市広報やSNS、ホームページ、新聞等で広くイベント周知を図っている。また、燃料費等が高騰する中、積極的に光熱水費の節減に努めるなど、館長のリーダーシップのもと、利用者サービスの質は落とさず適切な管理運営を行っており、評価に値する。
---------	----	---

指定管理業務評価シート

評価視点	評価項目	事業区分	評価指標	数値目標	指定管理者評価				図書館協会評価						
					事業計画の概要	事業実績	実績値	評価	評価内容	評価					
基本的サービス	個人利用者のサービス (各館・移動図書館車)	指 定	利用者状況について、前年度と比較し増加傾向にあるか。	各館ともに市民が利用しやすい環境を整備するとともに、図書館の事業活動について周知を図る。	少子高齢化における人口減少に伴い、来館者数、貸出冊数ともに僅かながら減少したため、目標を達成することができなかった。しかしながら、今後も更なる創意工夫を凝らしながら、より利用しやすい図書館となるよう、幅広い周知並びに適切な環境整備に努めていきたい。	B	妥当である	B							
					・来館者数				134,913人/年						
					・貸出利用者数				44,887人/年						
					・新規登録者数				614人/年						
					・貸出冊数				196,921冊/年						
					・予約受付件数				26,501件/年						
	蔵書構築 (各館・移動図書館車)	指 定	選書計画が、4館それぞれ特色を持った計画とされているか。また、図書選定及び除籍が、仕様書に規定する選定組織で行なわれているか。	各館の選書方針を定め、4館それぞれの役割を受け持つことで図書館全体での蔵書の充実を図る。除籍については指定管理要項の規定に則り、過不足なく行う。	各館ごとに決められた選書方針に従い、効率的な資料購入に努めた。また、除籍についても廃棄業務取扱要領の規定に従って廃棄を行った。購入金額は仕様書指定の額を十分に満たしており、今後も利用者の皆様に喜ばれるような選書、配架に努めていきたい。	A	妥当である	A							
					・購入冊数				4,893冊/年						
					利用者に提供されるサービスの品質				指 定	職員が、一般図書のほか自館所蔵資料に精通するため努力しているか。	複数の職員が共同で担当する等、図書館サービスへの理解と意識を高める。	日常的な書架整理作業や、利用者が利用しやすい魅力的な配架・展示方法を考える等、職員間で意識の共有を図りながら、自館資料の把握に努めた。	B	妥当である	B
利用者に提供されるサービスの迅速性及び的確性	指 定	市民ニーズを汲み取って、時代の変化にすばやく対応し、市民のための具体的な有効な図書館サービスに結びつける努力が行なわれているか。	来館する利用者だけでなく、広く市民に目を向けた啓発・啓蒙活動にも力を注ぐ。	今年度は、特に「松下村塾」の周知に注力して、松下村塾に関する事業等を展開。市民全体に向けて幅広く図書館並びに松下村塾の利活用促進を図った。	B	妥当である	A								

市の総合評価

所管課コメント	判定	少子高齢化や大雪の影響もあり、来館者数、貸出利用者数、貸出冊数とも僅かながら前年度比で減少となった。しかしながら、各館とも選書方針による蔵書が適切に行われ、利用者のサービス向上に努めている。また、松下村塾に関する事業等を実施し、多くの市民へ幅広く図書館及び松下村塾の利活用促進を図ったことは、一定の評価に値する。
---------	----	--

指定管理業務評価シート

評価視点	評価項目	事業区分	評価指標	数値目標	指定管理者評価				図書館協議会評価	
					事業計画の概要	事業実績	実績値	評価	評価内容	評価
充実・推進を図るサービス	事業実施(各館)	指定	仕様書に規定する企画業務が遂行されているか。また、利用者サービスを向上させる事業が提案されているか。		予算と人員を効果的に活用し、指定管理期間を通して年毎にサービスの向上に努める。	市指定事業だけでなく、事業団独自の事業を多数開催し、地域住民の皆様にもとても喜ばれた。今後も、図書館の魅力を伝える事業を開催していくと共に、新たな利用者の獲得も行っていく。		B	妥当である	B
			・事業実施回数	26回/年			・事業実施回数	27回/年		
	学校(保育園・児童館)連携(各館)	指定	図書館サービスの一つとして、教職員に認識され、また利用されるよう取組しているか。		専任の職員と各館の責任者を中心に、市内の児童・生徒の読書環境づくりに積極的に関与・協力していく。	学校図書館の整備に司書を派遣し、児童生徒の読書環境を整える支援を幅広く行った。また、学校への書籍の団体貸し出しや、児童に図書室の利用指導や読み聞かせを行う等、児童の読書推進に寄与した。		A	妥当である	A
			・学校連携事業実施回数	8回/年			・学校連携事業実施回数	7回/年		
			・学校図書館支援(学校数)	10校/年			・学校図書館支援(学校数)	13校/年		
	レファレンスサービス(各館)	指定	レファレンスサービスの充実について、成果が上がっているか。		利用者に対するレファレンスサービスの充実を努める。	利用者から問い合わせがあった場合に対応するだけでなく、何かを求めていると思われる利用者や、資料等を必要としている利用者に対してこちらから積極的に声がけを行う等、レファレンスサービスの充実を努めた。		B	妥当である	B
	リクエストサービス(各館)	指定	リクエストサービスの充実で、利用者に結びついていくか。							
	ボランティアなどとの協働事業(各館)	指定	図書館事業や読書活動に関わるボランティアを養成・支援する事業を企画実施しているか。		ボランティア団体に対する支援や共同事業の開催を通して、共益的なパートナーシップの構築に努める。	図書館後援会や、各読み聞かせ団体と協力、連携を図りながら、様々な事業を開催した。		A	評価基準Bの範囲である	B
			・おはなし会開催回数	42回/年			・おはなし会開催回数	53回/年		
			・おはなし会参加者数	620人/年			・おはなし会参加者数	748人/年		
			・ボランティア図書館利用回数	60回/年			・ボランティア図書館利用回数	52回/年		
	相互貸借サービス(各館)	指定	相互貸借サービスを安定的に運営し、利用者の増加に結び付けていくか。		資料の要望や情報サービスの質を向上させるため、図書館の相互協力を活用する。	前年度に比べ相互貸借件数は減少となったが、今年度は自館の蔵書充実を図ったことによるものと考えられる。もちろん、所蔵していない本を希望する利用者も多いことから、相互貸借をぜひ活用していただき、図書館利用者が増加するよう、幅広い宣伝・周知活動に努めていく。		B	妥当である	A
	特色を持った図書館づくり(各館)	指定	各館、地区の特色にあわせた個性ある地域図書館を具体化する事業計画が立案されているか。							
					地域の資料の収集に努めるとともに、所蔵している資料の紹介や活用を図る。	県立博物館協力の下、真崎文庫の周知を目的とした「菅江真澄入門」や、郷土の先賢「狩野亨吉」に関する事業を開催するなど、幅広い周知を行った。		A	妥当である	A

市の総合評価

所管課コメント	判定	事業団独自事業を多数開催して新たな利用者拡大に努めているほか、学校等への司書派遣を行い児童・生徒に対する読書推進を積極的に行っている。また、図書館後援会や読み聞かせサークルと連携を図りながら事業を展開しているほか、相互貸借サービスや真崎文庫の幅広い周知など、図書館サービスの向上に努めていることは、一定の評価に値する。
---------	----	---

判定

	項目数	S	A	B	C	D
全般	9		2	7		
基本	4		2	2		
充実・推進	7		3	4		
(点数換算)		0	70	91	0	0
計	20	161点				
判定 (点数/項目数)		8			A	

※基本シートの「利用者に提供されるサービスの迅速性及び的確性」についての協議会評価は、幅広く松下村塾に関する事業等を展開し、図書館のみならず松下村塾の利活用促進を図り、利用者及び見学者の大幅増は大いに評価できるとして「A」判定

項 目	S	A	B	C	D
点数換算係数	12	10	7	5	3

点数	10超	7超 10以下	5超 7以下	3超 5以下	0超 3以下
判定	S	A	B	C	D

A: 「あらかじめ定められた事業計画及び目標を上回る成果をあげた」